

---

# バカと静雄と召喚獣

甘楽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと静雄と召喚獣

### 【コード】

N0892M

### 【作者名】

甘楽

### 【あらすじ】

池袋に所在する文月学園。そこでは日常と非日常が絡み合う。

バカテス!! x 1 〽両編プロローグ〽 (前書き)

すいません!! 昨日投稿した方はなぜか短編の設定になってました

orz

こっちは連載の設定になってるはずなんでwでは

## バカテス！！×1 ～両編プロローグ～

文月学園 Fクラス

あーダリい。マジダリい。

「なんでこんなクラスになるかなあ・・・」

平和島 静雄

その名前は、町のチンピラにとって恐れをもって挙げられる存在だ。なんせ彼の力は、そこらの自動販売機でさえ持ち上げ、投げてしまふほどのだから。

チンピラ達にとって恐怖の存在となつているにもかかわらず、彼の成績は優秀な方で、Aクラスには入れなくても、B、Cクラスくらいには入れるだろうと思つていたのだが・・・結果は、Fクラス。

「あんなところでキレてなけりゃなあ・・・」

なぜ成績優秀な彼が、Fクラスになつてしまつたかというと・・・

「でも、悪いのはあの眼<sup>ガン</sup>つけてきた教師が悪いんだよなあ・・・」

彼は、試験中にブチ切れ、机を投げてしまったのである。

実際に、教師が悪いところもあり、奇跡的にけが人もいなかったため、停学は免れたが・・・

途中退場ということで、無得点扱いとなつてしまつた。

「さて・・・臨也のやつにでも八つ当たりしてくるか・・・」

折原 臨也

彼は学年の中でも最優秀の成績であるが個人で情報屋を営んでいるというつわさもありません。停学になったことも何度かある。

今年も女子の最優秀、霧島翔子を差し置き、Aクラスの代表となった。

臨也と静雄は犬猿の仲で、臨也はナイフを使い、静雄はそこらのものを使って、いつもいつも殺し合っている。そのたびに西村先生（鉄人）に止められてしまうが。

「いねえな・・・戻るか、雄二と殺り合ってこよう。」

こうして、静雄のいつも（？）の日常が始まるのであった。

バカテス!! × 1 文月編 く非日常はそう遠いわけではないく (前書き)

どもです。

一応言いたいことはありますが、それは皆さんに読んでもらってか  
らにしましょう。それでは。

バカテス!! ×1 文月編 〱非日常はそう遠いわけではない〱

文月学園 〱グラウンド〱

「ええい！ちょこまかと！」

「うるせえ！つてゆうかなんで俺が静雄と喧嘩しなくちゃいけねえんだ！」

「臨也が見当たらねえからだっ！」

「なんか理不尽すぎるぞおい！」

このような会話を交わしながら、静雄はサッカーゴールを振りまわして、雄二は必死にそれをよけながら戦っていた。するとそこに、

「こらあああああ！お前ら、何をやってるかああああ！」

「・・・チツ、鉄人か。」

「お・・・終わった・・・」

「また貴様らか！補習室に来い！」

「絶対にいやだ！」ダツ

「おいこら静雄！喧嘩売ってきたのお前だろうが！逃げんじゃねえ！」ダツ

「坂本！貴様静雄を追いかけられるようにして逃げようとしてないか！？」

「ばれたか！でももうこっちのもんだ！」

「ええい！逃がすかあ！」

この逃走劇は雄二と静雄がつかまり30分ほどで終わった。

文月学園 〱Fクラス〱

静雄視点

「「ただいま」」

「お、やっと坂本と静雄が帰ってきたみたいね、アキ。」

「そうだね、おーい二人とも」

ん？あのバカたちが呼んでるようだ。

「どうした？お前ら。鉄人の説教で疲れてんだが。」

「え？殴り飛ばして逃げてこなかったの？」

「いや、できるっちゃできるだろうが・・・たぶん停学だろ？」

それくらいわかれよ。

「まあそうだよな。ところでさ、臨也くんの件なんだけど」

「あいつはノミ蟲とよべ」

「学年トップの人をノミ蟲何て呼べないよ・・・」

「じゃあせめて呼び捨てにしてくれ。あいつが尊敬されてるのは腹が立つんだ。」

「まあ・・・わかったけど・・・それで、臨也くんの件」ガタッ

「死にてえか？」

「やめて！わかった呼び捨てにするから窓の外に投げるのはやめて  
！」

「そうか・・・じゃあ・・・これで許してやる」ビュッ（静雄が明久を投げる音）

「え、ちょ」ドガシヤアアアア（明久がちゃぶ台を巻き込んで飛んでいきそれもと壁にぶつかる音）

「静雄・・・アキが死んだらウチが説明するしかないじゃない・・・  
」

ん？美波がなんか言ってるが・・・その前にこれの後片付けだな  
「よいしょつと」

壊れてぼろぼろになったテーブルを部屋の隅にまとめておく。

「作業は終わった？」

「あいよ」

「・・・いてて・・・」

「手前は寝てる」ボグツ

「ぐふっ！」

「さて・・・明久が寝たところで・・・何の話だ？」

「アンタって結構容赦ないわよね・・・まあいいわ。実は、臨也が静雄の居場所を聞かれたみたいなの。」

「え？俺の居場所が？」

そいつは意外だ。俺に会いに来るやつなんて、めったにいない。何せ怖がられてるからな・・・

「おい、俺も混ぜてくれ。」

「・・・俺にも聞かせる。」

「私にも聞かせてください。」

明久の様子を観てニヤニヤしていた雄二と明久を開放していたムツツリー二と瑞希が近寄ってくる。

「いいわよ。それでね、臨也に聞くと、その人は拳銃けんじゅうを持っていたそうよ。」

「・・・拳銃チャカだと？」

「だから、気をつけた方がいいわ。臨也はどうでもいいって言ってたんだけどね。」

そりゃそうだろう。あいつは俺を利用しようとしてるようなやつだ。心配するとは思えない。

「まあ、大丈夫だろう。こいつ（静雄）の腹にナイフ刺しても、5ミリくらいしか刺さらないって話だからな。拳銃でやられても、少し痛いくらいじゃねえか？なあ、静雄。」

「いや・・・撃たれたことねえし。」

「まあ、そうだろうな。」

「まあ、わかった。とりあえず、夜に出歩く時は気をつける。」

「うん、そうして。」

いやはや・・・拳銃なんか持ってるやつがうるついでとはな・・・俺が打たれることより、こいつらが打たれることの方が心配だよ・・・

キーン コーン カーン コーン

「お、チャイムが鳴ったな。戻ろっぜ。」

「おうよ。」

「授業始めるぞー」

そのとき、静雄はまだ気が付いていなかった。

この日常が続くのは、あとほんのわずかだといっことだ。

バカテス！！×1 文月編 〱非日常はそう遠いわけではない〱（後書き）

どうでしたか？この辺から非日常に入って行きそうですね。一応、デュラとバカテスをどっちも読んでいないとわからなくなるかもしれません。なんせ登場人物がもつと増えていく予定ですので・・・これを機に、原作を買うことをお勧めしますwwまあ、これからもどンドン投稿していくつもりですので、次回は1週間以内に書き上げたいと思いますwでは、また時話で。 ノシ

バカテス!! x 1 池袋編 く日常とは何か 非日常とは何か (前書き)

どうも。甘樂です。

今回は池袋辺で、デユラララの方のキャラクターが何人か出ていたりします。

言っておきたいことはいつものようにあとがきで書きますので、本遍をどうぞ。

バカテス!! x1 池袋編 日常とは何か 非日常とは何か

「さて・・・出かけるか」

夜になり、静雄は出かけようとする。

いつものような服を着て、いつものような持ち物で。池袋の町へ出て行った。

家をでて、数分ほど歩くと、突然、馬の嘶きのような音が聞こえてきた。

「またセルテイか・・・この音だとまだ遠い場所かな。」

馬の嘶きのような音はバイクの立てる音であり、そのバイクに乗っているセルテイと静雄は知りあいだったりする。

「まあ、俺は俺で気をつけなくちゃならないんだよな。」

今日の昼、美波に拳銃チャカを持っている人物がいると知らされ、少し不安だった。

自分が撃たれることがではなく、大切な仲間が撃たれることがだ。

「とりあえずバイト仲間全部あたってみよう・・・ん？」

そこには、

「オ兄サン、寿司クウ、イイヨー、才姉サン、寿司クウ、イイヨー」

「サイモン！」

「Oh〜シズオ、寿司クウカ？安くスルヨ〜」

「いや、いい。そんなことより、拳銃持ってるやつ見なかったか？」

「見ナカツタネ〜ソナナコトヨリ、」

「却下だ。じゃあな」

すぐに逃げる。今日は金がねえんだ。すまねえな、サイモン。

さて・・・他に知ってそくなやつはいるか？とりあえずトムさんのところに向かいながら誰かいたら聞くとしよう・・・

静雄は、バイトで取り立てをやっていたりする。身長からして、制服でない限りは高校生だとばれることはない。なので、前にバーテンのバイトをやっていた時に弟が送ってきたバーテン服を着ていたりする。

チンピラの中では、バーテン服の男に喧嘩を売るな、といわれているそう。

静雄が会社の事務所についた時。

パン！パン！

と、乾いた音が響く。

「な・・・」

絶句してしまい、なにも言えない。

ただ、動かなければ、ということにはわかった。

いいタイミングで、事務所の扉が開く。

「トムさん」

「ああ、今の音だろ。仕事の場所もどうせそっちの方だった。行くぞ」

「うす」

「こんなときでも返事は変わらないんだな。」

「そうすね・・・」

とにかく、銃声のしてほうへ向かうことにした。

・・・そこに、静雄の絶対に見たくない光景が広がっていると知らずに。

バカテス!! x 1 池袋編 く日常とは何か 非日常とは何か (後書き)

どうでしたか？なんか、話の進み方が早すぎるような気もしますが、お金を取っているわけではないのでそこまで厳しいことは言われな  
いと思っています。

今回はサイモンとトムしか出ませんでした、これからもどんどん  
新キャラを出していくつもりですのでよろしくお願いします。

更新が、1週間以内とか言いながら1日に2回となりました。まあ、  
1週間より長いよりはいいでしょう。では、次回をお楽しみに。

ノシ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0892m/>

---

バカと静雄と召喚獣

2010年10月8日12時28分発行